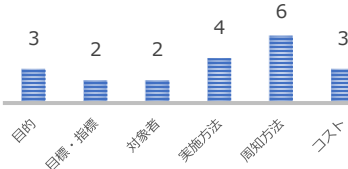


資源化政策費に関する改善プログラム（概要）

部課名	環境資源部環境政策課	評価人チームの評価結果			
目的	ごみの減量・資源化の推進	総合評価	一部改善すべき	改善すべき項目	
キーワード	ごみの減量・分別				
キーワードに関する取り組み概要	・ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進に向けて、生ごみ処理機の普及のための補助や市民が不要物を直接持ち込めるリサイクル広場の運営のほか、講座の実施、イベントの開催、広報紙・SNSを活用した情報発信などを行う。 ・ 町内会・自治会、子ども会、老人会などの地域の団体が自主的に行っている資源回収に対して、奨励金の交付や看板の支給などの支援を行う。 ・ 町内会・自治会から推薦を受けた市民の方を「地域に密着し、ごみの減量と資源化の取組みを推進していくごみ減量の市民リーダー」として委嘱し、それぞれの地域で行う活動の支援を行う。	総合意見	・ 市民が楽しみながら前向きにごみ減量・資源化に取り組めるよう、市民が取り組みの意義を具体的に理解できるような成果の可視化や、民間企業や教育機関等と連携した事業などを実施してほしい。 ・ ごみの出ないまちづくりに向けたごみ減量・資源化の取り組みを戦略的に実施するために、これまで以上に民間企業や教育機関等との連携を進めるとともに、効果的に周知してほしい。		

評価人チームの主な意見と事業所管課の改善に向けた主な取り組み

【議論のポイント1】 誰もが参加しやすいごみ減量・資源化の仕組みについて		【議論のポイント2】 ごみの出ないまちづくりに向けた行政の役割について	
 評価人チーム	市民が楽しみながら前向きにごみ減量・資源化に取り組めるよう、目標の設定や民間企業と連携した事業などに取り組んでほしい。	 評価人チーム	ごみの出ないまちづくりを戦略的に実施するため、これまで以上に民間企業や教育機関等との連携を進めるとともに、効果的に周知してほしい。
 事業所管課	市民が行った取り組みによるごみの削減量やCO2排出削減量などの成果を実感できるよう、事業ごとに目標となる指標を設定するとともに、ホームページ等で結果を公表します。 また、市民がより気軽にごみ減量・資源化の取り組みに参加できる新たな事業などを実施します。	 事業所管課	高校生以上の学生が改めてごみ減量・資源化の仕組みや方法を学ぶ機会が得られるよう、高校や大学を対象とする環境教育を継続的に実践します。 また、多くの来場者が見込まれる民間企業等のイベントに参加し、周知活動を行います。

【議論のポイント1】誰もが参加しやすいごみ減量・資源化の仕組みについて

評価人チームの意見

市民が楽しみながら前向きにごみ減量・資源化に取り組めるよう、市民が取り組みの意義を具体的に理解できるような成果の可視化や、民間企業や教育機関等と連携した事業などを実施してほしい。
（改善すべき項目：目的/目標・指標/対象者/実施方法）

<評価人からの提案>

- ・3Rの取り組みにおける目的・目標を楽しく前向きに市民と共有できるとよいのではないか。
- ・ごみ減量、資源化は市民の協力が不可欠であるため、取り組みの意義を市民が具体的に理解できるよう、ごみ削減につながった量など、成果を可視化できるとよいのではないか。
- ・高校や大学などの教育機関と連携し、学園祭等でのリサイクルやデータ分析を行ってもらうことなどにより、学生の当事者意識を高めるとともに、新たなアイデアが出てくるような仕組みづくりが行えるとうよいのではないか。
- ・高校生の学園祭はたくさんのごみが出るため、市の取り組みを活用してごみ減量・資源化を進められるとうよいのではないか。

事業所管課の改善の方向性

・市民がごみ減量・資源化の意義を具体的に理解してもらえるような取り組みを検討する。
・民間企業や教育機関と連携し、ごみ減量・資源化を推進する取り組みを検討する。

No	事業所管課の改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値（時点）	目標値（時点）	実績値（時点）	取り組み内容（2023年度）	取り組み内容（2024年度）
①	【ごみ減量・資源化の成果を可視化できる指標の設定及び公表】 市民が行った取り組みによるごみの削減量やCO2排出削減量などの成果を可視化し、実感できるようにすることで、更なる取り組みにつながるよう、個別の事業に指標を設定するとともに、ホームページ等で結果を公表する。	指標を設定し、結果を公表した事業数（累計）	2事業（2023年3月）	4事業（2024年3月）	4事業（2024年3月） 【改善済み】	家庭用生ごみ処理機を利用することによる年間の削減量や、市内施設に設置しているマイボトル専用給水器の年間の使用量、ペットボトルの削減本数やCO2の削減量など、ごみ減量・資源化の成果を可視化できる指標を設定し、ホームページで公表した。	2023年度で改善済み
②	【民間企業と連携したごみ減量・資源化の新たな事業の実施】 プラスチックごみの資源化やリユース支援の仕組み・ノウハウを持つ民間企業と連携し、市民がより気軽にごみ減量・資源化の取り組みに参加できる新たな事業を実施する。	新規事業数	0事業（2023年3月）	2事業（2023年9月）	2事業（2023年9月） 【改善済み】	プラスチックごみの資源化のため、HOYA(株)アイケアカンパニーと連携し、使い捨てコンタクトレンズの空ケースの拠点回収を、市内施設で開始した。 また、リユース活動の促進のため、(株)ジモティーと連携し、「リサイクルショップまちエコ」で販売している粗大ごみの再生販売商品を、店舗に行くことなくスマートフォン等から気軽に確認できる取り組みを開始した。	2023年度で改善済み
③	【教育機関との協働によるごみ減量・資源化に関する研究の実施】 市民がごみや環境問題をより身近に感じることができるよう、高等学校や大学などの教育機関と協働し、ごみ減量・資源化に関する研究を実施する。	研究を実施した事業数（累計）	1事業（2023年3月）	2事業（2024年3月）	2事業（2024年3月） 【改善済み】	桜美林大学の学生と協働し、資源とごみの分別・収集日の確認などができる「町田市ごみ分別アプリ」の利用率を増やすための研究を実施した。 研究結果を踏まえ、アプリのトップページでごみの種別ごとの捨て方が確認できるようにするなど、必要な情報にアクセスしやすくなるよう、アプリの機能を更新した。	2023年度で改善済み

【議論のポイント1】誰もが参加しやすいごみ減量・資源化の仕組みについて

No	事業所管課の 改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	取り組み内容 (2023年度)	取り組み内容 (2024年度)
④	【教育機関が行うイベントでのごみ分別支援の実施】 学生が身近な場所でリサイクル活動に参加しやすくなるように、高等学校や大学の文化祭などのイベントにおいて、分別ステーション※の設置などの支援を試行的に実施する。 ※分別ステーション：ごみや資源を分別するボックスと分別のためのアドバイザーを配置している場所	ごみ分別支援を実施した学校数	0校 (2023年3月)	1校 (2024年3月)	1校 (2025年3月) 【改善済み】	教育機関が行うイベントでのごみ分別支援の実施のため、市内の高等学校を訪問し、分別ステーションの内容や導入効果について説明を行うとともに、文化祭などのイベントで利用していただくための調整を行った。 今後も引き続き市内の高等学校や大学と調整する。	市内の高等学校や大学の文化祭等イベントでのごみ分別ステーション設置は、家庭ごみと事業所（学校も含まれる）のごみの分別とでは処理方法に違いがあるため、調整が難しく実施に至らなかった。 都立山崎高校における環境イベントにおいて、学生とともに「マイボトルキャンペーン」を開催し、使い捨て容器等の使用削減・ごみ減量意識の普及啓発を行った。

【議論のポイント2】ごみの出ないまちづくりに向けた行政の役割について

評価人チームの意見	ごみの出ないまちづくりに向けたごみ減量・資源化の取り組みを戦略的に実施するために、これまで以上に民間企業や教育機関等との連携を進めるとともに、効果的に周知してほしい。（改善すべき項目：対象者/実施方法/周知方法） ＜評価人からの提案＞ ・多様な取り組みの必要性・効果などを把握し、優先順位を付けて戦略的に実施する必要があるのではないか。 ・高校や大学においても環境教育を行うとよいのではないか。 ・マイボトルの使用を推進するため、会社や学校に協力してもらうとよいのではないか。 ・ごみ相談窓口など、市民からの意見収集の窓口はあるが、知られていないと感じたため、周知を強化するとよいのではないか。 ・補助金や奨励金の制度をもっと周知して制度を利用してもらうとよいのではないか。 ・たくさんの良い活動を行っているが、市民に周知されていないように感じたので、多くの人に参加してもらえるよう周知により力を入れるとよいのではないか。	事業所管課の改善の方向性	・ごみ減量・資源化の各取り組みの必要性や効果、財政とのバランスなどを把握したうえで、優先順位を付けて戦略的に実施することを意識し、改善に向けた取り組みを検討する。 ・環境教育の対象の拡充を検討する。 ・民間企業との連携によるごみ減量・資源化の周知・啓発の取り組みを検討する。

No	事業所管課の改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値（時点）	目標値（時点）	実績値（時点）	取り組み内容（2023年度）	取り組み内容（2024年度）
①	【環境教育の充実】 幼稚園・保育園や小学校・中学校などを対象に行ってきた出前講座に加えて、高校生以上の学生が改めてごみ減量・資源化の仕組みや方法を学ぶ機会が得られるよう、試験的に行った高校や大学を対象とする環境教育を、継続的に実施する。	環境教育を実施した高等学校や大学の数（累計）	1校（2023年3月）	2校（2024年3月）	3校（2024年3月） 【改善済み】	町田市のごみの現状や3Rの重要性などをテーマに、町田総合高等学校、山崎高等学校、成瀬高等学校において、市職員による出前講座を実施した。 このうち、町田総合高等学校、山崎高等学校の2校では、講座の実施後、学生が授業で行ったごみ減量の方策に関する課題研究について、市職員が提言を述べるなどの支援を行った。	2023年度で改善済み
②	【生ごみ処理機等の普及促進】 市民が生ごみ処理機の購入費補助制度を知ることができる機会を増やすため、ごみ分別アプリや広報紙などによる周知や、公共施設におけるちらし・ポスターの掲示に加え、生ごみ処理機を扱っている店舗においてもポスターやポップを掲示する。	ポスターやポップの掲示店舗数	0店舗（2023年3月）	8店舗（2024年3月）	16店舗（2024年3月） 【改善済み】	家庭用生ごみ処理機を扱っている店舗に依頼し、16店舗において購入費補助制度を周知するポスターやポップを掲示した。 電気式の家計用生ごみ処理機を販売する店舗に加え、コンポストなどのたい肥化容器を販売する店舗においても、ポスターやポップの掲示を依頼したことから、実績値が目標値より多くなった。	2023年度で改善済み
③	【民間企業等と連携したごみ減量・資源化の啓発活動の実施】 市民が環境問題やごみ問題に触れることができる機会を増やすため、行政や町内会・自治会等のイベントに加え、多くの来場者が見込まれる民間企業等のイベントに参加し、周知活動を行う。	民間企業等のイベントへの参加回数	0回（2023年3月）	1回（2024年3月）	3回（2024年3月） 【改善済み】	4月にブックオフコーポレーション(株)が開催した「町田リユースフェス2023」（来場者数約3,800人）、5月にルミネ町田店が開催した「SKY MARCHE」（来場者数673人）、11月に(株)東急が開催した「GREE Good MARKET」（来場者約3,600人）に参加し、分別アプリのPRや食費ロス削減を周知するブースを出店した。	2023年度で改善済み